平成22年度

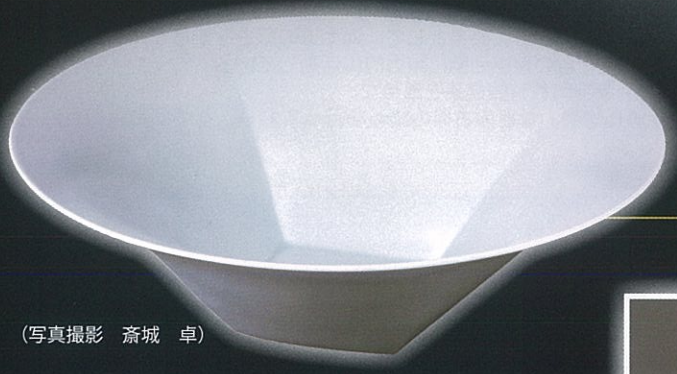
入場無料

鳥取県文化功労賞 受賞記念巡回展

平成23年
1月8日[土]～1月16日[日]
米子コンベンションセンター
（情報プラザ）
開館時間：９時～17時
休 館 日：なし

平成23年
1月21日[金]～1月30日[日]
とりぎん文化会館
（展示室）
開館時間：９時～17時
休 館 日：１月24日（月）

平成23年
2月2日[水]～2月13日[日]
倉吉博物館
（展示室４）
開館時間：９時～17時（入館は16時30分まで）
休 館 日：２月７日（月）



（写真撮影　斎城　卓）

陶芸　**前田 昭博**

郷土史　**小谷 惠造**

洋画　**八橋 誠滋**

主催／鳥　取　県
お問合せ／鳥取県文化観光局文化政策課
電話 0857(26)7839　ファクシミリ 0857(26)8108　E-Mail bunsei@pref.tottori.jp

鳥取県では平成15年度から優れた芸術文化活動により、広く文化の振興に功績のあった方の功績を讃えて表彰し、県民文化の向上に資することを目的として、鳥取県文化功労賞を設置しています。
本巡回展は、平成22年度に受賞された方の功績と活動を広く県民のみなさまに紹介するものです。

［本年度受賞者のみなさん］

前田　昭博（まえた　あきひろ）　陶　芸（鳥取市）

昭和29年八頭郡河原町（現鳥取市）生まれ。大阪芸術大学工芸科卒業。
富本憲吉氏の「陶器は最も抽象的な彫刻」という言葉を意識し、大学卒業後、一貫して白磁に取り組み、独自の手法により形象の美を追求している。昭和52年から「新匠工芸展」に発表の場を求め、その後「日本陶芸展」「日本伝統工芸展」などを中心に作品を発表し続けている。その評価は回を重ねるごとに高まり、平成16年には陶磁器では最高峰の賞の一つとなる「日本陶磁協会賞」を受賞し、平成19年には紫綬褒章を受章した。
また、「日本の工芸《今》100選」展（パリ）、「神聖なる白」展（イタリア）及び「Asian Ceramic Delta：Japan Korea and Taiwan」（韓国、台湾、日本）など海外にも作品を出品。
現在、日本工芸会理事、日本工芸会中国支部常任幹事、新匠工芸会会員。その作品は、文化庁、東京国立近代美術館、鳥取県立博物館、MOA美術館、エバーソン美術館（アメリカ）、大英博物館など国内外の美術館等に収蔵されている。

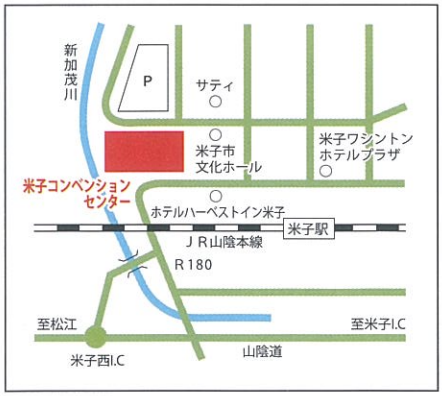
小谷　惠造（こだに　よしぞう）　郷土史（琴浦町）

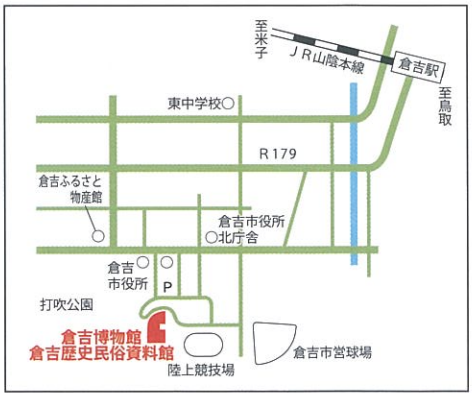
昭和９年東伯郡赤碕町（現琴浦町）生まれ。
鳥取大学学芸学部を修了後、県内の中・高校に勤務する傍ら、郷土の偉人を掘り起こし、「川合清丸とその周辺」、「池田冠山傳」、「言葉と心」（第19回鳥取県出版文化賞受賞）、「川合清丸傳」、「土方稲嶺傳」（第25回鳥取県出版文化賞受賞）、「佐善雪渓の研究」など多数の優れた著書を著した。
現在は国指定保護文化財「河本家住宅」の保存会会長として、河本家の歴史を明らかにし、その一般公開に務め、県内外での講演等、文化財の保存活動に精力的に活動している。
平成16年から平成22年９月末まで、琴浦町教育委員長を務めた。
なお教職を退職後、「論語」や「源氏物語」などの古典の講義を行っており、その回数は四百回に及ぶ。

八橋　誠滋（やばせ　せいじ）　洋　画（伯耆町）

大正12年日野郡二部村（現西伯郡伯耆町）生まれ。
鳥取師範学校卒業後、小学校教諭を務めながら創作活動に取り組み、自由美術展に出品。昭和39年には「主体美術協会」の結成に参加し、会員となる。その作品は、人の心の葛藤や人生をみつめた独自の表現となっている。
芸術クラブ賞（昭和60年）、スージーマルジス賞（平成元年、仏）を受賞。また、平成17年には郷土作家展「異景　八橋誠滋／渡里彰造の世界」展が開催されるなど、長年にわたり多くの実績を残している。
米子市美術展覧会及び鳥取県美術展覧会の審査員や運営委員を務めた。
満87歳を迎える現在も意欲的に創作活動に励み、毎年作品を発表している。

［各会場へのアクセス及びお問合せ先］





米子コンベンションセンター
米子市末広町294番地
電話 0859(35)8111

とりぎん文化会館
鳥取市尚徳町101-5
電話 0857(21)8700

倉吉博物館
倉吉市仲ノ町3445-8
電話 0858(22)4409